

「生態系ネットワーク保全・整備拠点事業地区」候補地について

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会
生息環境づくり部会

1. 平成28年度の鳥類ワーキング(東部エリア)において選定された保全・整備拠点事業地区

(1) 中海・彦名浚渫土処理地

所在地	鳥取県米子市彦名町および同市安倍（北西側に米子水鳥公園、南側に萱島がある）
規模	約1,000m×250m 約12ha。第1処分地(約4.2ha)、第2処分地(約7.5ha)
土地所有・管理者	官地(国土交通省出雲河川事務所)
整備の経緯	中海の水質改善を目的とした「中海浄化浚渫事業」の浚渫土により造成された埋め立て地
環境タイプ	第1処分地の一部に水面が見られるが、大部分は湿地化または陸地化している。 第2処分地は垂直なコンクリート護岸に囲まれた止水環境が形成されている。塩分濃度は中海上層より低く、水の供給は中海からのものを除けば降水に限られる。
大型水鳥類の利用状況(過去～今)	平成12年から14年ごろまで、コハクチョウが塹として利用していたとする情報がある。
人間の利用状況	過去に公園等として整備・利用する計画があったが、現在は白紙状態。
社会環境条件(保護区の指定等)	国指定鳥獣保護区(特別保護地区ではない、ラムサール条約登録湿地外)。
その他	NPO法人中海自然再生センターが島根大学とともに平成22～23年に環境調査を実施しており、国や県のレッドリストに掲載されている魚類、昆虫類、水生植物が多く確認されている。



● 求められる保全・整備内容(鳥類ワーキング(東部エリア)での意見要旨)

[処分地全体]

- ・ 隣接する米子水鳥公園と一体的な整備を進め、このエリアに水鳥類にとって良好な環境を整備していくことが望まれる。ツル類やコウノトリ等が降り立つことのできる、水深10～20cm程度の浅い湿地を整備することが望ましい。
- ・ 当地はコウノトリ・トキなど、動物質を食物資源とする大型水鳥類の好む環境が相応しい。水鳥の種類によって水生植物の有無の好みがあるため、水生植物の生育環境も多様化することが望ましい。
- ・ 湛水させる場合、環境管理のために、水位調整が可能な設備を予め考えておくことが望ましい。
- ・ 米子水鳥公園と連携を図り、市民が鳥や自然とふれあう場としても活用できないか検討して欲しい。
- ・ 米子水鳥公園から当地へアクセス可能な手段(連絡路の整備、小型船の配置等)の確保可能性も検討して欲しい。

[第1処分地]

- ・ 第1処分地では内浜浄化処理場から排出される、温排水を活用した「淡水湿地」を創出することが望ましい。愛知県西尾市等の、処理水を活用した池沼ビオトープの整備例も参考にするとよい。
- ・ 渡良瀬遊水地のような、深い池と浅い池と陸地など、多様性のある環境を創出し、鳥類、両生類、昆虫類などさまざまな生物が生息できる環境を生み出すことが望ましい。

[第2処分地]

- ・ 現状では第2処分地は水深が深いところが多く、大型水鳥類が降り立つには不向き。大型水鳥類が生息地として利用できるよう、土砂の投入や水生植物の植栽等を通じて改善していくことが望ましい。
- ・ 大型水鳥類の脚が届く、浅瀬を整備することが望ましい。

● 保全・整備を進めるにあたっての課題等

- ・ 内浜浄化処理場の処分水の活用や米子水鳥公園との連携、さらに当地の整備後の管理運営体制の検討にあたっては、米子市等との調整が必要。



参考情報：下水処理水を活用したビオトープ整備事例 —矢作川浄化センター（愛知県西尾市）—

- 処理水放流先の三河湾で盛んなノリ漁への配慮から、処理水を一度屋外施設（冷却池）に流し、水温を下げる等の処理を行った後に放流している。酸化による脱窒効果も認められている（※1）
- 当地はトンボ類や水鳥にとって良好な水辺環境となっており、公共施設が有するビオトープとしても位置付けられている。平成16年に銃猟禁止区域に指定、定期的に観察会を実施する等して保全・活用されている（※1、2）



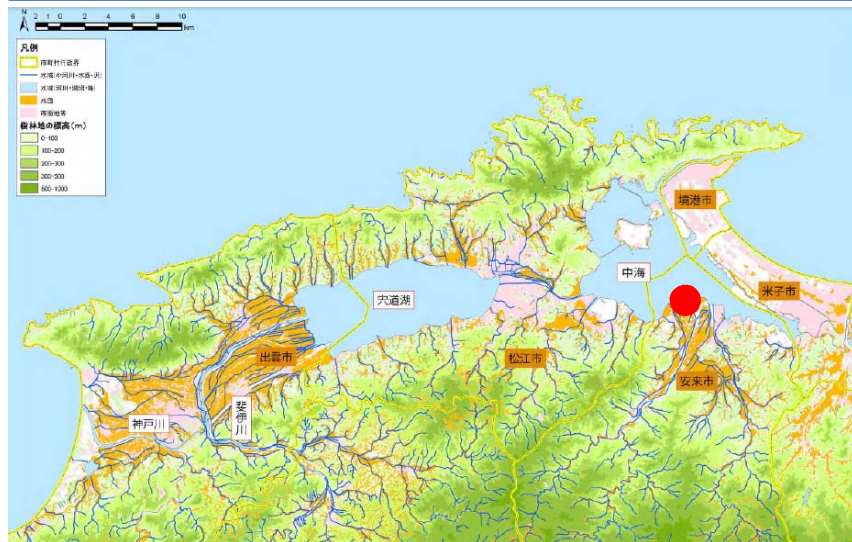
（国土地理院平成22年8月撮影）

※1 公共用水域へ配慮した安定化池の利用（第43回下水道研究発表会講演集、別府智志ほか（2006））
（http://business3.plala.or.jp/awg/hp_gesui/h_kenkyu/H18_1.pdf）

※2 愛知県ホームページ「浄化センターのビオトープ」（<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/gesuido/0000020261.html>）

(2) 飯梨川河口～赤江大橋

所在地	島根県安来市赤江町他
規模	約50ha
土地所有・管理者	飯梨川は島根県が、河口域(中海)は出雲河川事務所が管理
環境タイプ	最下流域は河川敷や中州にヨシ等の抽水植物帯が形成されている。本川は水深が浅く、土砂が多く堆積する環境が続く。 河口域は浅く、河口前面を中心に帯状に土砂が堆積し、比較的規模の大きな砂州が形成されている。東赤江大橋より下流の河川敷は、背の高い多年生植物や樹木が繁茂している場所が多く、水面が見える場所は限られる。東赤江大橋～赤江大橋の河川敷は多くの場所が草地として管理されており、水面への見通しは比較的良い。
大型水鳥類の利用状況(過去～今)	河口の浅い砂州を中心に、毎年、秋～冬期にかけて、数十～百数十羽のコハクチョウが埒として利用する。平成14年、15年にはマナヅル、平成27年にはナベヅルの飛来・越冬記録がある。クロツラヘラサギ(環境省RL絶滅危惧IB類)やズグロカモメ(環境省RL絶滅危惧II類)も確認される。 平成12年ごろまで、赤江大橋下流側の中州を、コハクチョウが埒として利用していたとする情報がある。
人間の利用状況	カイトサーフィンや釣り、ラジコンやスキューバダイビング等の水上レクリエーションを楽しむ場として利用されている。年間3,000人が当地にレジャー目的で訪れているとの情報がある(安来市)。
社会環境条件 (保護区の指定等)	斐伊川水系中海支川域河川整備計画(平成18年、島根県) 斐伊川水系河川整備計画(平成22年、出雲河川事務所) 国指定鳥獣保護区特別保護地区(河口～東赤江大橋まで) ラムサール条約登録湿地(同上)



● 求められる保全・整備内容(鳥類ワーキング(東部エリア)での意見要旨)

[河口付近]

- ・ 河口付近はカイトサーフィンや釣り、ラジコンやスキューバダイビング等、人の利用が多く、接近・立入の度に攪乱が生じる。利用者との調整を検討すると共に、岸辺から少し離れた沖合に人が入らない浅場を造ることが望ましい。
- ・ ハクチョウのねぐらの環境整備として、河口に出ている砂州・砂嘴くらいの幅を延長するために土砂を投入して砂州を広げられないか検討していくことが求められる。
- ・ 葛西臨海水族園の沖合にある、擬岩の砂嘴みたいなものも検討すると良い。ハクチョウが飛び立つのに100mくらいの距離が必要なので、ある程度の広さを確保する必要がある。

[河口～赤江大橋]

- ・ 平成12年ごろまでは、東赤江大橋～赤江大橋間の中州にハクチョウ類が壱をとっていた。これまで通り浚渫を続け、ハクチョウ類の壱を再生することが望ましい。
- ・ 飯梨川は秋期に水位が高くなると砂州の水深が深くなるため、水鳥が利用しにくくなる。整備にあたっては、秋の水位のことを考慮することが重要。
- ・ 河川敷にワンドを複数整備し、ツル・トキ・コウノトリの採食環境の改善を図ることが望ましい。
- ・ 堤外の環境改善と並行し、堤内の周辺水田地帯についても、生物多様性保全型の農業を推進していく、または湿地環境の再生を一体的に図っていくことが望ましいので、検討して欲しい。
- ・ 地域のシンボリックな場所として、湿地再生を目指していくことが重要。

● 保全・整備を進めるにあたっての課題等

- ・ 飯梨川は県管理河川であり、中州の再生等の大型水鳥類の生息環境改善を図っていくためには、島根県との調整が必要。



(3) 米子水鳥公園

所在地	鳥取県米子市彦名新田665
規模	約28ha
土地所有・管理者	設置主体: 米子市 管理団体: 公益財団法人 中海水鳥国際交流基金財団
整備の経緯	中海干拓事業彦名工区の干拓地にできた湿地がコハクチョウやマガン等の水鳥類の生息地となった。当地の保護を求める市民運動がおこった結果、米子市が野鳥の生息地保護と、市民が自然と触れ合う場づくりを目的として整備。平成7年に米子水鳥公園として開設した。
環境タイプ	最も大きい池「つばさ池」は17ha。その他は学習施設とヨシを中心とした湿性草地、樹林。
大型水鳥類の利用状況(過去～今)	マガン、ヒシクイ、コハクチョウ、オオハクチョウ、マナヅル、ナベヅル、コウノトリの飛来記録がある。毎年、コハクチョウが越冬地(埒)として利用している。
人間の利用状況	市民と共に自然を守り育てていく施設として運営されている。 環境教育イベントやボランティアによる環境管理作業が定期的に実施されている。
社会環境条件 (保護区の指定等)	ラムサール条約登録湿地(登録地「中海」: 平成17年11月8日) 国指定鳥獣保護区特別保護地区 東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワーク登録(平成11年5月14日) ※現在は、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ重要生息地ネットワーク
その他	これまでに222種の野鳥が確認されている(平成27年度末)



● 求められる保全・整備内容(鳥類ワーキング(東部エリア)での意見要旨)

- 米子水鳥公園の水の底は沈下を続けており、ハクチョウ類のねぐらには不適当な環境になってきている。水深が深すぎると、大型水鳥類が利用しづらくなる。定期的に土砂を投入し、大型水鳥類の生息可能となる環境の改善を図っていくことが望ましい。
- 隣接する彦名浚渫土処理地等と一体的な湿地環境の保全・再生を進めていくことで、エリア全体で多様な大型水鳥類の安定した生息が図れるようにする。
- 米子水鳥公園から彦名浚渫土処理地を繋ぐアクセスルートの整備により、連携した地域の自然環境学習の充実化を図っていくことが望ましい。
- 地域資源の活用という観点から、ハクチョウが観察できる展望台の設置を新たに検討することが望ましい。
- コウノトリが定着するために、生息環境の拡充を進めていくのとあわせて巣塔を設置し、地域の新たなシンボルとしていくことが望ましい。

● 保全・整備を進めるにあたっての課題等

- 水鳥公園への土砂の投入は、米子市との調整が必要。

